

民主主義と図書館

原 田 隆 史

現代は情報の時代であるとは言い古された感のある言葉だが、情報の重要性を実感する出来事が続いている。少し前までは世界中の誰もが想像もしなかったロシア軍のウクライナ侵攻はその代表であろう。戦いの展開や帰趨は現時点では全く不透明であるが、各種の報道を見ていても正確な情報を得ることの重要性を感じる人も多いのではないだろうか。

ここでいう情報の重要性は、戦局の有利不利に直結するという意味ではなく（もちろん、戦局にも情報が大きく関与することは確かではあるが）、自立した人間としての判断ができるかどうかという点についてである。今回の出来事は、表現の自由・報道の自由が守られることの重要性を改めて人々に強く印象づけたと思われる。第三次世界大戦に突き進むかのような行動をとる指導者であってもロシア国内で支持する人が多いという報道から、偏った情報しか提供されないことの恐ろしさを感じることもあろう。このような状況の中で、現代日本が民主主義国家であることの幸せを感じるとともに、ある考え方を一方的に悪と決めつけるのではなく多様な情報を得て自分なりに考えることが許されることの重要性も認識する。今の時代だからこそ、民主主義に図書館が果たす役割について改めて考えたい。

1993年にノーベル文学賞を受賞したトニ・モリスン (Toni Morrison) の有名な言葉に「図書館は民主主義の柱である」がある。また、2018年に公開された映画 *The Public* (日本でのタイトル「パブリック 図書館の奇跡」) での「公共図書館は民主主義の最後の砦である」という台詞も印象的である。このような図書館と民主主義を結ぶ言説は他にも多数見られる。図書館と民主主義を考えると、その意味するところは多様で格差社会の中で行き場を失った人々に対してのサービス展開を念頭に述べられることもあれば、市民国民の知のインフラとしての存在という立場に関連づけて述べられることもある。さまざまな観点から図書館と民主主義について考えることはできるが、図書館が多様な情報に対して自由にアクセスする環境を保証することが民主主義の基本であるという考え方はその根底であろう。

私が担当する図書館情報学概論の授業でも、その最初の授業で図書館と民主主義につ

いて話をするにしている。一般に選挙が定期的に行われていることが民主主義の条件とされるが、権威主義体制でも多くの国で政党が存在し選挙が行われている。そして、それらの国々で投票を行う人々の中には自分の意思で独裁的な指導者に対しての投票行動を行っているケースも多い。民主主義は選挙が行われるかどうかだけではなく、投票を行う人々が自己統治力を持っているかどうか、言い換えれば自分の意見を自由に決めた上で投票行動を行ったか（行うことができたか）どうかということが重要なのである。自分の意見を責任ある形で組み上げるためには、人々が十分な情報を得ていることが必要である。その意味で、情報への自由なアクセスこそが民主主義を支える基本であるともいえよう。経済的な制約その他に関わらず、このような自由な情報へのアクセスを保証するという意味で図書館は民主主義を支えているのだと。

まだ入学したばかりの学生が受講者に多いこともあって、学生諸君からのコメントを見ると、図書館は彼らの多くが思っていた「無料で本が借りられるところ」という単純な施設ではないという説明は彼らの興味を引いてもいるようだ。しかし、逆に考えれば高校まで彼らは貸し出し以外の図書館の役割を聞いてこなかったということでもあり、その意味では図書館と民主主義に関しても、さらに他の図書館活動についても啓蒙が必要であるとも感じる。図書館の役割論に加えて、前述の「パブリック 図書館の奇跡」や「ニューヨーク公共図書館 エクス・リブリス」など近年公開された映画の中で描かれる、貸し出しだけではなく多様な図書館活動についても是非知ってほしい。

これからの社会において、情報の重要性はさらに大きくなっていくことが考えられる。多様な情報の氾濫の中で人々が自分の意見をきちんと考えていくことの重要性も高まっていく。レイ・ブラッドベリの「華氏451度」や有川浩の「図書館戦争」などの小説でも検閲や偏った情報だけを提供することの危険さは描かれるが、近年の社会では検閲のように情報を遮断する行為だけではなく、SNSなどを通じたディスインフォメーションなど情報過多の環境を作り出すことも容易になっている。変わっていく社会に必要な情報を提供していく図書館の役割もさらに広がっていくことが求められよう。1931年にインドの図書館学者ランガナタン (S. R. Ranganathan) が提唱した図書館学の五原則の5番目にある「図書館は成長する有機体である」は、現代の図書館にも大いに期待されているのである。

(はらだ たかし。同志社大学免許資格課程センター教授)